

香取遺産

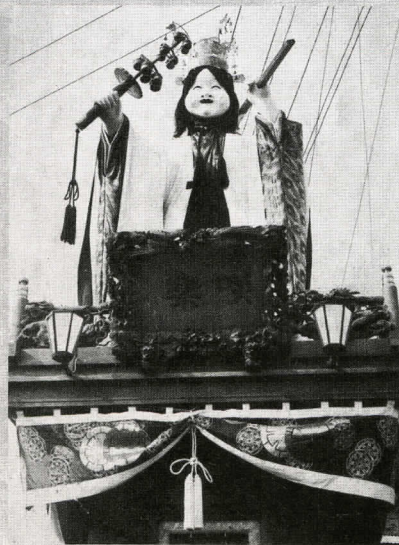
Vol.121

岡生涯学習課

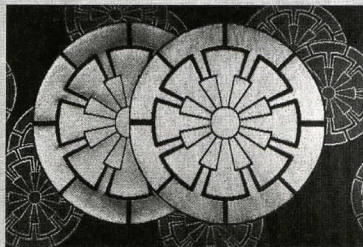
☎(50)1224

本川岸町山車の天幕

ヒゲタ醤油創業家深井吉兵衛の軌跡



▲本川岸区山車と旧天幕



▲復元新調した新天幕



▲カギダイ印

佐原の大祭で曳き廻される山車には、大人形の他に、彫刻や玉簾などさまざまな装飾が施されています。そのひとつが天幕です。天幕は、山車の上部（大天井）を囲うように張り巡らされた幕のことです。

中でも、本川岸町の山車に用いられていた天幕は、正絹地に金糸や銀糸の刺繍があしらわれた重厚で豪華なものとして知られます。この天幕の保管箱の裏には、「大正三年九月新調 深井吉兵衛 製」と墨書があり、深井吉兵衛という人物がスポンサーとなり作製されたものであることがわかります。

深井吉兵衛家は、近江（現在の滋賀県）日野出身で、佐原・銚子・波崎に出店を構えた商人です。初めは銚子に質屋と古着店を開きましたが、その後、醤油醸造業へと進出していきます。佐原店は宝永年間（1716～1735）に醤油醸造の工場として設立され、大正3年には現在の山野病院の裏手のあたりに

あったと考えられます。佐原店で製造された醤油の商標は「カギダイ印」。幕末期の関東醤油醸造家番付では鶴屋弥重郎の名で「東大関」にランクされ、明治5年には1300石を製造する佐原第一の醸造家でした。

大正時代に入ると、個人経営の伝統的な手工業であった醤油醸造にも機械化・大規模化の波が押し寄せ、合併・会社設立の動きが広がります。大正3年9月、本川岸町の天幕作製とまさに同じ時、深井家も銚子の田中玄蕃家・濱口吉兵衛家と合併して銚子醤油合資会社を設立。これが現在のヒゲタ醤油株式会社です。本川岸町の天幕は、江戸時代から200年以上、地域と共に生きた近江商人深井家の終わりと新たな旅立ちを告げる贈り物だったのかもしれない。

大正3年作製の旧天幕は、劣化と傷みが激しくなったため、平成15年に復元新調されました。現在の天幕からは、往時の輝きをしのぶことができます。